My GEO STORY vol.34

地元を愛するみなさんを紹介するコーナー

大洞山雲林寺30世住職

轟　省吾 氏

当山雲林寺は曹洞宗の寺院で長野原町大字長野原に位置し、開山466年の歳月を刻んでおります。1559年、永禄2年にこの地に移転する前は長野原町貝瀬の寺屋敷という地名の場所で臨済宗の寺院として1200年代から存在していたと記録されています。天明3年の浅間山の大噴火により消失した本堂は、被災から20～30年の年を経て再建され現在に至っております。この大噴火の時の住職は、当山十三世枝転梅応大和尚で大変な状況にも関わらず、それ以前（明暦年間）からの過去帳（亡くなられた方のデータ）を持って保管したため、今現在でも残っております。
ちなみに天明3年にお亡くなりになられた雲林寺の壇信徒の方は254霊になります。その方々のご供養の為に、雲林寺参道にはお地蔵様が造立され、現在でも毎年8月5日にご近所の方々を中心にご供養させて頂いております。志半ばで被災された先人の霊魂（みたま）と共に、衆生済度のご尊顔でおられる当山の天明地蔵に手を合わせておこしいただければ幸いに存じます。　　合掌





ジオジオ豆知識 vol.34

やんば天明泥流ミュージアム　学芸員

向出　治恵 氏

土から出てきた木材は……

湿潤な土地で発掘調査を行っていると、しばしば何百年、何千年前の木材が出土することがあります。このようなものを、水浸出土木材と呼びます。ハッ場ダム建設に伴う発掘でも、天明泥流下から数多くの木製品が発見され、当館でも多数展示しております。木材は主に、セルロース・ヘミセルロース・リグニンという三つの物質でできています。建物で言えば、セルロースが鉄筋、ヘミセルロースが鉄筋をつなぐ金具、リグニンがコンクリートにあたります。長い間土中にあった木材は、このうち、セルロースとヘミセルロースが分解されており、見た目は頑強な普通の木材でも、そのまま乾燥させると、縮んでひしゃげたり、ひび割れて原形をとどめないことも少なくありません。これを防ぎ、空気中で保管できるようにするために、内部の水分を別の物質に置き換えたり、弱っている組織を強化する保存処理が行われます。木製品の保存処理で一番使われている方法は、ポリエチレングリコール（PEG）含浸法でPEG4000という薬品を使用します。このPEG4000は、融点が60℃弱、非常に水に溶けやすいため、この水溶液に木製品を漬けこみ、内部の水分と薬品を置換させます。とはいえ、最初から濃度の高い溶液に浸すと、浸透圧で脆弱な細胞がつぶれて変形を招くため、段階を踏んで、低い濃度から徐々に高い濃度へと時間をかけて浸してゆき、完成までには1年かかります。最近では、このエ程の期間を短縮する為、真空凍結乾燥を併用し、3か月ほどで仕上がります。当館の木製品の多くはこの方法で保存処理されております。何気なく展示ケースの中に飾られている木製品も、実はたくさんの人の手が加わって皆さんの目に触れることが出来ているのです。



アンケートに答えると毎号5名様に
ハンドブック（非売品）が当たる！



Together Forever

アンケートはこちら

冬のジオパーク関連イベントのお知らせ！

12月6日	浅間山北麓ジオパークフォーラム
12月27日～1月4日	年末年始　休館
2月開催予定	ジオカフェ

発行：浅間山ジオパーク推進協議会
Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会
〒377-1524 群馬県吾妻郡嬬恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama.com
Facebook：www.facebook.com/asamageopark
Twitter：https://twitter.com/home

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

[料金]＊ガイド1名あたりの値段
平　地：半日6,600円　1日13,200円（参加者11名以上ガイド2名）
軽登山：半日11,000円　1日16,500円（参加者8名以上ガイド2名）
登　山：　1日27,500円（参加者8名以上ガイド2名）

編集後記

今年も早いもので年末となり、忙しない季節となりましたが、どうぞ穏やかな年越しをお迎えください。来年も「あさまびと」をよろしくお願いいたします。

GEOPARKS JAPAN 日本ジオパーク

Mt. Asama North GeoPark

浅間山北麓ジオパーク通信

あさまびと

ASAMA-BITO

2025 冬号

Vol.35

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs × ASAMA

特集：四季折々の散策コース（冬）



四季折々の散策コースを紹介してきたシリーズの最後「冬」バージョンです。純白一色の中をスノーシューやノルディックスキーを履いて散策するのも冬場の楽しみですが、暖房が聞いた室内で浅間山北麓の古代から現代に至るまでの歴史や文化の変遷、大自然が繰り成す天変地異の有様とそこで生き延びた人間の営み等をじっくりと観賞するのも良いのではないでしょうか。そこで、今回は嬬恋郷土資料館と天明泥流ミュージアムの展示内容を紹介します。新たな発見がきっとあると思いますので是非足を運んでみてください。

浅間山北麓で博物館めぐり

1783 年の天明の大噴火では、溶岩や火砕流の他にも、浅間山から発生した土石なだれが鎌原を襲い、天明泥流が吾妻川沿いを下って村々をのみ込み、多くの命が失われました。嬬恋郷土資料館では、土石なだれによって被害を受けた鎌原村と出土遺物を、やんば天明泥流ミュージアムでは、その土石が吾妻川に流れ込み発生した泥流による被害を分かりやすく展示・説明しています。
ここではその一部をご紹介します。





嬬恋郷土資料館

1階は1783年の浅間山大噴火の際に埋没した村から発掘された品々などを展示し、映像コーナーでは噴火の悲劇と、浅間山の美しい自然を見る事ができます。

施設情報

●料金
大人　300円
小中学生 150円
●開館時間
9時～4時30分
●休館日
毎週水曜日





やんば天明泥流ミュージアム

天明3年に発生した「天明泥流」に埋没した歴史を、ハッ場ダム建設工事にともなう大規模な発掘調査をもとに展示や模型・映像などで体感できるミュージアムです。

施設情報

●料金
大人　600円
小中学生 400円
●開館時間
9時～4時30分
●休館日
毎週水曜日

山村ながら豊かな当時の暮らし

この地域は出土遺物から縄文の時代から交通の要衝であったようです。犠牲になった村落の遺品からは、草津温泉や善光寺に向かう旅人や荷を運ぶ人馬で賑わい豊かな生活の様子が窺えます。





嬬恋郷土資料館鎌原出土遺物写真（右）と
やんば天明泥流ミュージアム令和７年度　企画展の様子（左）

８月５日で時が止まった出土遺物

両地域の遺物は、厚い土砂や泥流に覆われ、まるで“真空パック”のような密閉状態で埋没しました。そのため、梅干しや茶葉などが腐らず、当時のままの姿で発見されています。こうして「８月５日」突然途切れた生活の痕跡は、天明噴火の実像と村人の日常を静かに語りかけます。





下駄出土時写真（上）と
出土した障子戸の様子（左）
やんば天明泥流ミュージアム 提供

もともと1つだった！？

別々の場所で見つかった梵鐘

土石なだれは、小宿村にあった常林寺（今の嬬恋村と長野原町の境付近）も押し流しました。寺の梵鐘は明治43年に15キロ下流の川原畑で、竜頭は昭和58年に2キロ下流の川原で見つかりました。現在、梵鐘はやんば天明泥流ミュージアム、竜頭は嬬恋郷土資料館に別々に展示されています。



梵鐘（右）（やんば天明泥流ミュージアム）
龍頭（上）（嬬恋郷土資料館）

流れてきたものの大きさと速さ

鎌原地区を襲った土石なだれと吾妻川流域の泥流の堆積物は共に3m近い厚さがありますが、様相は大きく異なります。土石なだれは、既存の土砂の流れで下ったため、家屋は吹き飛ばされ逃げ遅れた多くの犠牲者がでました。その土石が吾妻川に入り泥流となり、ゆっくりと流域の家屋を押し潰したため、被害者は少なく生活の痕跡が生々しく残っています。
一方火砕流は、噴火により発生した高温（数百℃）の火山灰・軽石・ガスなどが高速で斜面を流れ下る現象です。破壊力が非常に大きく、流速は時に時速100 kmを超えるもので、土石なだれや天明泥流とは大きく異なります。



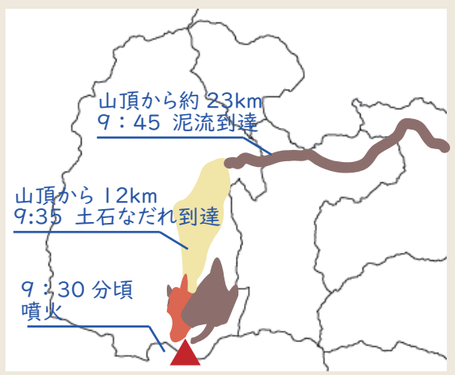




延命寺跡遺跡土石なだれ剥ぎ取り標本（左）
（嬬恋郷土資料館）
天明泥流剥ぎ取り標本（右）
（やんば天明泥流ミュージアム）

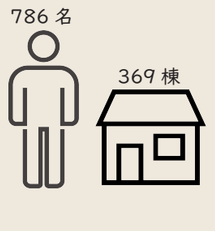
2つの村でどのくらいの被害の差があったのか

嬬恋村の死者数は786名、被害家屋は369戸。長野原町の死者数は440名、被害家屋は299戸。その中でも鎌原村は、あっという間に土石なだれが鎌原村を埋没させ、当時人口570名のうち死者数477名で、鎌原観音堂に逃げた93人だけが助かりました。



土石なだれと天明泥流による死者数と被害家屋数

嬬恋村	死者数	被害家屋数	長野原町	死者数	被害家屋数
鎌原	477	93	小宿	141	60
芦生田	136	43	古森	14	19
袋倉	17	23	与喜屋	5	8
大前	27	81	新井	2	6
西窪	58	40	川原湯	14	19
赤羽根	14	33	羽根尾	27	63
中居	10	29	勘場木・立石	12	1
今井	47	27	坪井	4	21
			長野原	200	71
			林	17	10
			川原畑	4	21



やんば天明泥流ミュージアム　展示解説より

相互応援協定

相互応援協定とは、地域発展のため、地域社会への貢献と活性化を目的とした取り組みです。

ゲストハウス UBUKATA

1日一組限定で、お客様には、浅間山と豊かな自然を全身で感じ、身も心もリフレッシュできるよう、心を込めておもてなしをさせていただきます。



つなぐカンパニーながのはら

「一般社団法人つなぐカンパニーながのはら」は、群馬県吾妻郡長野原町のまちづくり組織です。
町と各地域や各団体・組織、住民や関係人口の力をひとつに集めて長野原町の未来をつくるために、令和2年4月1日にスタートしました。

